

公益財団法人図書館振興財団

第17回 子どもの本 この1年を振り返って 2016年 ブックリスト

■ノンフィクションの部■

科学読物研究会 遠藤 美子

- 選挙権が18歳に。
政治について、経済について、国家について考えるきっかけに

- セクシャルマイノリティへの理解

- 学校で
多言語の子どもたちへの教育のために
プログラミング関係の本

- 教科書に沿った内容のシリーズもの
「すがたをかえる食べもの」(学研プラス)
「はたらくるま」(WAVE出版)

- かこさとし作品

- 復刊

■科学入門

★	低	『文房具のやすみじかん』/土橋 正・文, 小池 壮太・絵/福音館書店/2016. 1/¥1300/(絵本)
	低	『北をめざして 動物たちの大旅行』/ニック ドーソン・さく, パトリック ベンソン・え, いだてつじ・やく/福音館書店/2016. 1/¥1600/(絵本)
	低	『こどもどうぶつえんのみんなの1日』/福田 豊文・しゃしん, なかの ひろみ・ぶん/アリス館/2016. 5/¥1600/(480. 76)
	低	『海のなかのぞいた』/よしの ゆうすけ・さく/福音館書店/2016. 6/¥1200/(絵本)
	低	『くらべる図鑑 新版』(小学館の図鑑NEO+)/加藤 由子・[ほか]監修・指導/小学館/2016. 7/¥1900/(031)
	低	『みちくさしようよ!』(ほるぷ創作絵本)/はた こうしろう・作, 奥山 英治・作, はた こうしろう・絵/ほるぷ出版/2016. 6/¥1300/(絵本)
	低	『絵本眠れなくなる宇宙のはなし』(講談社の創作絵本)/佐藤 勝彦・作, 長崎 訓子・絵/講談社/2016. 7/¥1500/(絵本)
	低	『どででんかぼちゃ』(どーんとやさい)/いわさ ゆうこ・さく/童心社/2016. 10/¥1100/(絵本)
	低	『ゆきゆきゆき』(幼児絵本ふしぎなたねシリーズ)/たむら しげる・さく/福音館書店/2016. 10/¥900/(絵本)
	低	『100円たんけん』/中川 ひろたか・ぶん, 岡本 よしろう・え/くもん出版/2016. 10/¥1300/(絵本)
	低	『まよなかのせんろ』/鎌田 歩・著/アリス館/2016. 11/¥1400/(絵本)

■科学一般

★	高	『親子でできるたのしい科学実験 ナショナルジオグラフィック自由研究』(NATIONAL GEOGRAPHIC)/カレン・ロマノ・ヤング・著, 春日井 晶子・訳/日経ナショナルジオグラフィック社/2016. 6/¥2200/(407)
★	高	『そもそもなぜをサイエンス 1~4』/大橋 慶子・絵/大月書店/2016. 5~/1~4全て¥2400/(408)

■植物

★	YA	『植物はなぜ動かないのか 弱くて強い植物のはなし』(ちくまプリマー新書)/稲垣 栄洋・著/筑摩書房/2016. 4/¥820/(471)
★	中	『イチヨウの絵本』(まるごと発見! 校庭の木・野山の木)/濱野 周泰・編/農山漁村文化協会/2016. 2/¥2700/(478. 5)
	中	『カエデ(モミジ)の絵本』(まるごと発見! 校庭の木・野山の木)/田中 浩・編/農山漁村文化協会/2016. 3/¥2700/(479. 824)
	中	『マツの絵本』(まるごと発見! 校庭の木・野山の木)/福田 健二・編/農山漁村文化協会/2016. 3/¥2700/(478. 65)
	低	『カラスウリ』(しぜんといっしょ)/藤丸 篤夫・しゃしん, 有沢 重雄・ぶん/そうえん社/2016. 3/¥1200/(479. 98)

低	『やさいの花』(ふしぎいっぱい写真絵本)/埴 沙萌・写真, 嶋田 泰子・文/ポプラ社/2016. 5/ ¥1500/(626)
低	『どんぐり図鑑』(調べてみよう名前のひみつ)/宮國 晋一・写真・文/汐文社/2016. 9/¥3200 (657. 85)
中	『おいでよ森へ 空と水と大地をめぐる命の話』/「おいでよ森へ」プロジェクト・編/ダイヤモンド社/ 2016. 3/¥1900/(650)
中	『根っこのえほん 1 おいしい根っこ』/根研究学会・協力, 小泉 光久・文/大月書店/2016. 6/ ¥2400/(471. 1)
中	『根っこのえほん 2 野菜の根っこ』/根研究学会・協力, 小泉 光久・文/大月書店/2016. 8/ ¥2400/(471. 1)
中	『根っこのえほん 3 フルーツの根っこ』/根研究学会・協力, 小泉 光久・文/大月書店/2016. 10/¥2400/(471. 1)
中	『机の上の植物園』(ぼくの自然観察記)/おくやま ひさし・著/少年写真新聞社/2016. 6/¥18 00/(471. 3)
高	『ぜんぶわかる! イネ』(しぜんのひみつ写真館)/内山 りゅう・著/ポプラ社/2016. 4/¥2000 (479. 343)
高	『おおふじひっこし大作戦 第3刷』(たくさんのふしぎ傑作集)/塚本 こなみ・文/福音館書店/20 16. 4/¥1300/(627. 79)

■昆虫・その他

★	中	『くらべた・しらべたひみつのゴキブリ図鑑』(ちしきのぼけっと)/盛口 満・絵・文/岩崎書店/201 6. 8/¥1600/(486. 42)
★	中	『ぜんぶわかる! トンボ』(しぜんのひみつ写真館)/尾園 暁・著/ポプラ社/2016. 6/¥2000/ (486. 39)
★	高	『マイクロワールド大図鑑 3 電子顕微鏡でのぞいてみよう! 昆虫』/宮澤 七郎・監修/小峰書店 /2016. 2/¥2800/(460. 87)
★	中	『みつけた! びっくり虫』(ちいさないきものずかん)/谷本 雄治・文/童心社/2016. 6/¥1300 (486)
	中	『みつけた! おもしろ虫』(ちいさないきものずかん)/谷本 雄治・文/童心社/2016. 6/¥1300 (486)
★	中	『ハチのくらし大研究 知恵いっぱいの子育て術』(楽しい調べ学習シリーズ)/松田 喬・著/PHP 研究所/2016. 9/¥3000/(486. 7)
★	低	『つちはんみょう』/館野 鴻・作/絵/偕成社/2016. 4/¥2000/(絵本)
	低	『うまれたよ! クワガタムシ』(よみきかせいきものしゃしんえほん)/山口 進・写真・文/岩崎書店/ 2016. 4/¥2200/(絵本)
	低	『うまれたよ! クモ』(よみきかせいきものしゃしんえほん)/新開 孝・写真・文/岩崎書店/2016. 4/¥2200/(絵本)
	低	『うまれたよ! オトシブミ』(よみきかせいきものしゃしんえほん)/安田 守・写真・文/岩崎書店/2 016. 3/¥2200/(絵本)
	低	『うまれたよ! ボウフラ』(よみきかせいきものしゃしんえほん)/中瀬 潤・写真・文/岩崎書店/20 16. 3/¥2200/(絵本)
	低	『うまれたよ! カメムシ』(よみきかせいきものしゃしんえほん)/新開 孝・写真・文/岩崎書店/20 16. 4/¥2200/(絵本)

	低	『うまれたよ！タガメ』(よみきかせいきものしゃしんえほん)/松沢 陽士・写真・文/岩崎書店/2016. 4/¥2200/(絵本)
	低	『むしこぶみつけた』(ふしぎいっぱい写真絵本)/新開 孝・写真・文/ポプラ社/2016. 5/¥1500/(486. 1)
	低	『ちょう いきいきいきもの』/いまもり みつひこ・著/アリス館/2016. 4/¥1300/(絵本)
	中	『ファーブル先生の昆虫教室 本能のかしこさとおろかさ』/奥本 大三郎・文/ポプラ社/2016. 6/¥1800/(486)
	中	『トンボをさがそう、観察しよう どこで、どのようにくらしているの?』(楽しい調べ学習シリーズ)/新井 裕・著/PHP研究所/2016. 7/¥3000/(486. 39)
	YA	『クマゼミから温暖化を考える』(岩波ジュニア新書)/沼田 英治・著/岩波書店/2016. 6/¥820/(486. 5)

■戦争と平和

★	高	『零戦パイロットからの遺言 原田要が空から見た戦争』(世の中への扉)/原田 要・[述]/講談社/2016. 9/¥1200/(289. 1)
	高	『これから戦場に向かいます』/山本 美香・写真と文/ポプラ社/2016. 7/¥1600/(319. 8)

■人権・福祉

★	YA	『したがう？したがわない？どうやって判断するの?』(10代の哲学さんぽ)/ヴァレリー・ジェラル・文, 伏見 操・訳/岩崎書店/2016. 4/¥1300/(151. 2)
	高	『食べるのがこわい 摂食しょうがい』(わかって私のハンディキャップ)/ブライアン・ラスク・著, 上田 勢子・訳/大月書店/2016. 1/¥1500/(493. 74)
★	高	『言葉がすらすらでないんだ 吃音』(わかって私のハンディキャップ)/スー・コトレル・著, 上田 勢子・訳/大月書店/2016. 1/¥1500/(496. 9)
	高	『いつも不安で心配なの 不安しょうがい』(わかって私のハンディキャップ)/ルーシー・ウィレッツ・著, 上田 勢子・訳/大月書店/2016. 3/¥1500/(493. 74)
	高	『ぶきっちょとはちがうんだ 統合運動しょうがい』(わかって私のハンディキャップ)/モーリーン・ブーン・著, 上田 勢子・訳/大月書店/2016. 3/¥1500/(493. 76)
★	高	『いろいろな性、いろいろな生きかた 1~3』/渡辺 大輔・監修/ポプラ社/1~3全て2016. 4/1~3全て¥3000/(367. 9)
★	YA	『きみが世界を変えるなら 1~3』/石井 光太・著/ポプラ社/1~3全て2016. 7/1~3全て¥1400/(159. 5)
	高	『めざせスペシャルオリンピックス・世界大会！ がんばれ、自閉症の類くん』(文研じゅべにーる)/沢田 俊子・著/文研出版/2016. 4/¥1300/(378)
	高	『恋の相手は女の子』(岩波ジュニア新書)/室井 舞花・著/岩波書店/2016. 4/¥860/(367. 97)

■生き方・伝記

★	高	『知里幸恵物語 アイヌの「物語」を命がけで伝えた人』(PHP心のノンフィクション)/金治 直美・著/PHP研究所/2016. 6/¥1400/(289. 1)
	YA	『ノーベルと爆薬』(世界の伝記科学のパイオニア)/トレバー・I.ウィリアムズ・作, 片神 貴子・訳/玉川大学出版部/2015. 12/¥1900/(289. 3)
	YA	『スティーブンソンと蒸気機関車』(世界の伝記科学のパイオニア)/コーリン・クレスウェル・ドーマン・作, 小川 真理子・訳/玉川大学出版部/2015. 12/¥1900/(289. 3)
	YA	『アインシュタインと相対性理論』(世界の伝記科学のパイオニア)/D.J.レイン・作, ないとう ふみこ・訳/玉川大学出版部/2015. 12/¥1900/(289. 3)
	YA	『エジソンと電灯』(世界の伝記科学のパイオニア)/キース・エリス・作, 児玉 敦子・訳/玉川大学出版部/2015. 12/¥1900/(289. 3)
	YA	『ダーウィンと進化論』(世界の伝記科学のパイオニア)/バーナード・ストーンハウス・作, 菊池 由美・訳/玉川大学出版部/2015. 12/¥1900/(289. 3)
★	YA	『メンデルと遺伝』(世界の伝記科学のパイオニア)/ウィルマ・ジョージ・作, 新美 景子・訳/玉川大学出版部/2016. 5/¥1900/(289. 3)
	YA	『ガリレオと新しい学問』(世界の伝記科学のパイオニア)/マーチン・サジェット・作, おおつか のりこ・訳/玉川大学出版部/2016. 5/¥1900/(289. 3)
	YA	『ニュートンと万有引力』(世界の伝記科学のパイオニア)/P.M.ラッタンシ・作, 原田 佐和子・訳/玉川大学出版部/2016. 5/¥1900/(289. 3)
	YA	『ファラデーと電磁力』(世界の伝記科学のパイオニア)/ブライアン・バウアーズ・作, 坂口 美佳子・訳/玉川大学出版部/2016. 5/¥1900/(289. 3)
	YA	『ベンツと自動車』(世界の伝記科学のパイオニア)/ダグ・ナイ・作, 吉井 知代子・訳/玉川大学出版部/2016. 5/¥1900/(289. 3)
★	中	『ルイ・ブライユと点字をつくった人びと』(調べる学習百科)/高橋 昌巳・監修/岩崎書店/2016. 7/¥3600/(378. 18)
★	高	『ニッポンの刑事たち』(世の中への扉)/小川 泰平・著/講談社/2016. 5/¥1200/(317. 7)
	YA	『武満徹 現代音楽で世界をリードした作曲家』(ちくま評伝シリーズ〈ポルトレ〉)/筑摩書房編集部・著/筑摩書房/2016. 1/¥1200/(762. 1)
	YA	『石井桃子 児童文学の発展に貢献した文学者』(ちくま評伝シリーズ〈ポルトレ〉)/筑摩書房編集部・著/筑摩書房/2016. 1/¥1200/(910. 268)
	中	『シュヴァル 夢の宮殿をたてた郵便配達夫』(たくさんのふしぎ傑作集)/岡谷 公二・文/福音館書店/2016. 4/¥1300/(289. 3)
	中	『サリバン先生とヘレン ふたりの奇跡の4か月』/デボラ・ホプキンソン・文, ラウル・コローン・絵, こだま ともこ・訳/光村教育図書/2016. 8/¥1500/(絵本)
	高	『お仕事ナビ 9 キャリア教育支援ガイド 飛行機に関わる仕事』/お仕事ナビ編集室・[編]/理論社/2016. 1/¥2800/(366. 29)
	高	『書店・図書館で働く人たち しごとの現場としくみがわかる!』(しごと場見学!)/戸田 恭子・著/ペリかん社/2016. 4/¥1900/(024)
	高	『通訳になりたい! ゼロからめざせる10の道』(岩波ジュニア新書)/松下 佳世・著/岩波書店/2016. 4/¥820/(801. 7)
	高	『マレットファン 夢のたねまき』/村中 李衣・作/新日本出版社/2016. 3/¥1400/(372. 237)
	高	『手をつなごうよ フィリピン・ミンダナオ子ども図書館』/松居 友・著/彩流社/2016. 4/¥1800/(016. 28)

	高	『生命の始まりを探して僕は生物学者になった』(14歳の世渡り術)/長沼 毅・著/河出書房新社/2016. 7/¥1300/(460)
	高	『転んでも、大丈夫 ぼくが義足を作る理由』(ポプラ社ノンフィクション)/臼井 二美男・著/ポプラ社/2016. 8/¥1200/(494. 72)
	高	『スパイ学 国際スパイになるために』/アンディ・ブリッグス・著, こどもくらぶ・訳・編集/今人舎/2016. 9/¥3000/(391. 6)
	高	『私が今日も、泳ぐ理由 パラスイマーノ瀬メイ』(スポーツノンフィクション)/金治 直美・文/学研プラス/2016. 9/¥1350/(785. 23)
	YA	『生き物と向き合う仕事』(ちくまプリマー新書)/田向 健一・著/筑摩書房/2016. 2/¥820/(649)
	YA	『ハッブル 宇宙を広げた男』(岩波ジュニア新書)/家 正則・著/岩波書店/2016. 8/¥900/(289. 3)
	YA	『宇宙を仕事にしよう!』(14歳の世渡り術)/村沢 謙・著/河出書房新社/2016. 11/¥1300/(538. 9)

■地理・歴史

★	高	『世界中からいただきます!』/中山 茂大・文/偕成社/2016. 12/¥1800/(383. 8)
	低	『あらかわ・すみだがわ』(日本の川)/村松 昭・さく/偕成社/2016. 7/¥1500/(絵本)
	中	『シャクルトンの大漂流』/ウィリアム・グリル・作, 千葉 茂樹・訳/岩波書店/2016. 10/¥2000/(絵本)
	高	『近代日本移民の歴史 1~3 ビジュアル版』/「近代日本移民の歴史」編集委員会・編/汐文社/2016. 5~/1~3全て¥3000/(334. 51)
	高	『日本の世界遺産 イラスト図解と写真でよくわかる!』/山口 正・監修/朝日新聞出版/2016. 9/¥2000/(709. 1)

■社会・暮らし

★	低	『干したから…』(ふしぎびっくり写真えほん)/森枝 卓士・写真・文/フレーベル館/2016. 3/¥1400/(絵本)
★	低	『ざざ虫 伊那谷の虫を食べる文化』(ふしぎびっくり写真えほん)/松沢 陽士・写真・文/フレーベル館/2016. 10/¥1400/(絵本)
★	高	『話したくなる世界の選挙 世界の選挙をのぞいてみよう』/コンデックス情報研究所・編集/清水書院/2016. 8/¥2200/(314. 8)
★	高	『お金さえあればいい? 子どもと考える経済のはなし』/浜 矩子・著/クレヨンハウス/2016. 3/¥1300/(330)
★	低	『まいにちつかうはしってすごい!』(たべるってたのしい!)/柴山 ヒデアキ・絵, 谷田貝 公昭・監修/少年写真新聞社/2016. 10/¥1800/(絵本)
	高	『考えよう! やってみよう! フェアトレード 3 日本のフェアトレードの現状ときみにもできること』/こどもくらぶ・編/彩流社/2015. 12/¥2700/(678. 2)
	中	『それでも、海へ 陸前高田に生きる』(シリーズ・自然いのちひと)/安田 菜津紀・写真・文/ポプラ社/2016. 2/¥1500/(369. 31)

	中	『とうもろこしからそだてるオムレツ』(おいしいごはんができるまで)/真木 文絵・文/偕成社/2016. 2/¥1800/(596. 3)
	高	『地球のくらしの絵本 1 自然に学ぶくらしのデザイン』/四井 真治・著/農山漁村文化協会/2016. 2/¥2500/(508)
	高	『地球のくらしの絵本 5 自然エネルギーをいかす技』/四井 真治・著/農山漁村文化協会/2016. 6/¥2500/(508)
	低	『はちみつ』(かがくのとも絵本)/ふじわら ゆみこ・文, いせ ひでこ・絵/福音館書店/2016. 5/¥900/(絵本)
	低	『ハワイ島のボンダンス』/いわね あい・ぶん, おおとも やすお・え/福音館書店/2016. 6/¥1400/(絵本)
	中	『まちのしくみ バックヤード絵ずかん』/モクタン・アンジェロ・絵, こどもくらぶ・編/東京書籍/2016. 8/¥1800/(307)
	中	『おしりをふく話』(たくさんのふしぎ傑作集)/斎藤 たま・文/福音館書店/2016. 4/¥1300/(383. 9)
	高	『木と日本人 3 葉や花、実と種』/ゆのき ようこ・監修・文/理論社/2016. 3/¥3400/(653. 21)
	高	『人生の答えは家庭科に聞け!』(岩波ジュニア新書)/堀内 かおる・著/岩波書店/2016. 4/¥880/(590)
	YA	『投票に行きたくなる国会の話』(ちくまプリマー新書)/政野 淳子・著/筑摩書房/2016. 6/¥820/(314. 1)
	YA	『国家を考えてみよう』(ちくまプリマー新書)/橋本 治・著/筑摩書房/2016. 6/¥820/(311)
	YA	『「奇跡の自然」の守りかた 三浦半島・小網代の谷から』(ちくまプリマー新書)/岸 由二・著/筑摩書房/2016. 5/¥880/(519. 8137)
	YA	『いじめのある世界に生きる君たちへ いじめられっ子だった精神科医の贈る言葉』/中井 久夫・著/中央公論新社/2016. 12/¥1200/(371. 42)

■物理・化学

	中	『身近な物質のひみつ 何でできている?どんな性質がある?』(楽しい調べ学習シリーズ)/山口 晃弘・監修/PHP研究所/2016. 7/¥3000/(431)
--	---	--

■宇宙・地球

★	高	『よくわかる火山のしくみ どうして噴火するの?火山のすべてを大解剖!』(子供の科学★サイエンスボックス)/高橋 正樹・著/誠文堂新光社/2016. 1/¥2200/(453. 8)
★	YA	『宇宙探査の歴史 & 宇宙の起源にせまる21のアクティビティ』(ジュニアサイエンス)/MARY KAY CARSON・[著], 谷口 義明・監訳, 鈴木 将ほか・訳/丸善出版/2016. 2/¥3000/(538. 9)
★	高	『月はぼくらの宇宙港』/佐伯 和人・作/新日本出版社/2016. 10/¥1500/(538. 9)
	高	『さがせ! 宇宙の生命探査大百科』/佐藤 勝彦・総監修/偕成社/2016. 2/¥4500/(440)
	低	『夜空をみあげよう』/松村 由利子・文, ジョン・シェリー・絵/福音館書店/2016. 5/¥1200/(絵本)

	中	『宇宙人っているの?』/長沼 毅・作, 吉田 尚令・絵/金の星社/2016. 6/¥1500/(絵本)
--	---	---

■古生物・化石

★	高	『鉱物・化石探し』(関西地学の旅)/柴山 元彦・編著/東方出版/2016. 8/¥1500/(459)
	高	『恐竜 図説知っておきたい! スポット50』(Rikuyosha Children & YA Books)/ステイブ・パーカー・著/六耀社/2016. 5/¥1850/(457. 87)
	中	『大昔のへんな生きもの超百科』(これマジ? ひみつの超百科)/富田 京一・監修/ポプラ社/2016. 4/¥890/(457)
	中	『恐竜の骨』(骨の博物館)/ロブ・コルソン・文, 黒輪 篤嗣・訳/辰巳出版/2016. 5/¥2600/(457. 87)
	中	『世界の恐竜MAP 驚異の古生物をさがせ!』/土屋 健・文/エクスマレッジ/2016. 8/¥2200/(457. 87)

■生物一般

★	中	『みてビックリ! 動物のウンコ図鑑 1~3』/中居 恵子・文/ミネルヴァ書房/2016. 1~/1~3 全て¥2800/(481. 34)
★	中	『外来生物ずかん 見る知る考えるずかん』/五箇 公一・監修/ほるぷ出版/2016. 11/¥3600/(468. 038)
★	高	『ずかん細菌 見ながら学習調べてなっとく』/鈴木 智順・監修/技術評論社/2016. 9/¥2680/(465. 8)
	低	『畑の一年』/向田 智也・作/小学館/2016. 4/¥1400/(絵本)
	中	『地球を旅する生き物たち ツバメからクジラ、トナカイまで』(楽しい調べ学習シリーズ)/樋口 広芳・監修/PHP研究所/2016. 9/¥3000/(481. 78)
	中	『ライオンのおじいさん、イルカのおばあさん 動物のおじいさん、動物のおばあさん』/高岡 昌江・文/学研プラス/2016. 9/¥1400/(480)
	高	『となりに生きる動物たち』(世の中への扉)/共同通信社写真部・著/講談社/2016. 7/¥1500/(480)
	高	『アニマリウム ようこそ、動物の博物館へ』/ジェニー・ブルーム・著, 千葉 啓恵・訳/汐文社/2016. 8/¥3200/(480)

■魚類・その他

★	中	『ウナギのいる川いない川』(ポプラサイエンスランド)/内山 りゅう・著/ポプラ社/2016. 4/¥1300/(487. 66)
	低	『海の生きもの図鑑』(調べてみよう名前のひみつ)/小林 安雅・写真・文/汐文社/2016. 3/¥3200/(481. 72)
	低	『うまれたよ! ヤドカリ』(よみきかせいきものしゃしんえほん)/武田 晋一・写真, ボコヤマ クリタ・構成・文/岩崎書店/2016. 3/¥2200/(絵本)

	低	『うまれたよ！カメ』(よみきかせいきものしゃしんえほん)/関 慎太郎・写真・文/岩崎書店/2016. 4/¥2200/(絵本)
	低	『うまれたよ！クマノミ』(よみきかせいきものしゃしんえほん)/大方 洋二・写真・文/岩崎書店/2016. 4/¥2200/(絵本)
	低	『ウミガメものがたり』/鈴木 まもる・作・絵/童心社/2016. 5/¥1500/(絵本)
	低	『カエルくんのだいはっけん！』/松岡 達英・作/小学館/2016. 5/¥1600/(絵本)
	低	『イモリくんヤモリくん』(おはなしかがくえほん)/松岡 たつひで・さく・え/岩崎書店/2016. 2/¥1600/(絵本)
	低	『アマミホシゾラフグ 海のミステリーサークルのなぞ』(ほるぷ水族館えほん)/江口 絵理・ぶん, 大方 洋二・しゃしん, 友永 たろ・え/ほるぷ出版/2016. 7/¥1300/(絵本)
	中	『深海の生物』(ポプラディア大図鑑WONDA)/藤倉 克則・監修/ポプラ社/2016. 6/¥2000/(481. 74)
	中	『チリメンモンスターのひみつ さぐれ！海の生き物のくらし』/きしわだ自然資料館・監修/借成社/2016. 7/¥2000/(667. 2)

■人体・医学

★	高	『カミカミおもしろだ液学 だ液は健康を守る“まほうの水”』/岡崎 好秀・著/少年写真新聞社/2016. 10/¥1800/(491. 343)
	高	『ネットで見たけどこれってホント？ 1 健康のメディアリテラシー』/北折 一・著/少年写真新聞社/2016. 9/¥2000/(361. 453)
	高	『人体シアターへようこそ！ からだのしくみがまるごとわかる』/マリス・ウィックス・作, 仁木 めぐみ・訳/化学同人/2016. 8/¥1800/(491. 3)
	YA	『笑う免疫学 自分と他者を区別するふしぎなしくみ』(ちくまプリマー新書)/藤田 紘一郎・著/筑摩書房/2016. 1/¥780/(491. 8)
	YA	『目で見る栄養 食べ物が作るわたしたちの体』/ドーリング・キンダースリー編, 大塚 道子・訳/さ・え・ら書房/2016. 1/¥2800/(498. 55)

■鳥類

★	中	『鳥のくらし図鑑 身近な野鳥の春夏秋冬』/おおたぐろ まり・絵・文/借成社/2016. 11/¥2000/(488. 1)
	低	『すばこ』/キム ファン・文, イ スンウォン・絵/ほるぷ出版/2016. 4/¥1500/(絵本)
	低	『すずめくんどどこでごはんたべるの？ マルシャークの詩より』(幼児絵本ふしぎなたねシリーズ)/たしろ ちさと・ぶん・え/福音館書店/2016. 5/¥900/(絵本)
	高	『ツバメ観察記』(たくさんのふしぎ傑作集)/孝森 まさひで・文・写真/福音館書店/2016. 4/¥1300/(488. 99)

■ほ乳類

	低	『おしりポケット ウォンバットのあかちゃん』(そうえん社写真のえほん)/ゆうき えつこ・文, 福田幸広・写真/そうえん社/2016. 2/¥1400/(絵本)
	低	『ゾウのこども』(サバンナを生きる)/ガブリエラ・シュテプラー・写真・文, たかはし ふみこ・訳/徳間書店/2016. 3/¥1800/(489. 7)
	高	『イルカと話したい』/村山 司・作/新日本出版社/2016. 9/¥1500/(489. 6)

■工業・産業

★	高	『空から宝ものが降ってきた！ 雪の力で未来をひらく』/伊藤 親臣・著/旬報社/2016. 2/¥1500/(501. 6)
★	高	『守ろう・育てよう日本の水産業 1～5』/坂本 一男・監修/岩崎書店/1～5全て2016. 2/1～5全て¥3000/(662. 1)
★	高	『深く、深く掘りすすめ！〈ちきゅう〉世界にほこる地球深部探査船の秘密』/山本 省三・著/くもん出版/2016. 3/¥1400/(556. 7)
★	高	『世界がおどろいた！ のりものテクノロジー 1～3』/トム・ジャクソン・文/ほるぷ出版/2016. 1～1～3全て¥2800/(536. 02)
★	高	『人類の歴史を作った船の本 乗りもの歴史図鑑』/ヒサ クニヒコ・絵・文/子どもの未来社/2016. 1/¥2800/(550. 2)
	低	『しょうぼう車』(よみきかせのりものしゃしんえほん)/五味 零・作, 市瀬 義雄・写真/岩崎書店/2016. 1/¥2600/(絵本)
	低	『バス』(よみきかせのりものしゃしんえほん)/五味 零・作, 市瀬 義雄・写真/岩崎書店/2016. 1/¥2600/(絵本)
	低	『せいそう車』(よみきかせのりものしゃしんえほん)/五味 零・作, 市瀬 義雄・写真/岩崎書店/2016. 1/¥2600/(絵本)
	低	『ふね』(よみきかせのりものしゃしんえほん)/五味 零・作, 郵船クルーズ株式会社・写真, 市瀬 義雄・写真/岩崎書店/2016. 1/¥2600/(絵本)
	低	『こうじ車りょう』(よみきかせのりものしゃしんえほん)/五味 零・作/岩崎書店/2016. 1/¥2600/(537. 99)
	低	『はしれ！ぐるぐるやまのてせん』(こみねのりもの写真えほん)/もちだ あきとし・ぶん・しゃしん/小峰書店/2016. 1/¥1200/(686. 21361)
	低	『路線バスしゅっぱつ！』(ランドセルブックス)/鎌田 歩・作/福音館書店/2016. 4/¥1200/(絵本)
	低	『こうじのくるま はたらくくるま』/コヨセ ジュンジ・さく/WAVE出版/2016. 4/¥1300/(絵本)
	中	『透視絵図鑑なかみのしくみ 家のなか』/こどもくらぶ・編さん/六耀社/2016. 1/¥2800/(500)
	中	『めざせ鉄道博士！日本全国鉄道路線地図 完全版』/地理情報開発・編/永岡書店/2016. 5/¥1300/(686. 21)
	中	『よみがえれアイボ ロボット犬の命をつなげ』(ノンフィクション知られざる世界)/今西 乃子・著/金の星社/2016. 4/¥1400/(507. 9)
	高	『近未来科学ファイル20XX 2 生命の神秘の巻』/荒船 良孝・著/岩崎書店/2016. 3/¥1700/(404)

高	『近未来科学ファイル20XX 3 超人的テクノロジーの巻』/荒船 良孝・著/岩崎書店/2016. 3 /¥1700/(404)
高	『図解絵本工事現場』/モリナガ ヨウ・作・絵/ポプラ社/2016. 3/¥1450/(510)
高	『マイクロワールド大図鑑 4 電子顕微鏡でのぞいてみよう! ミクロの世界を探検しよう』/宮澤七郎・監修/小峰書店/2016. 3/¥2800/(460. 87)

■美術・芸術

中	『ミュージアムにスフィンクスがやってきた』(RIKUYOSHA Children & YA Books)/ジェシー・ハートランド・さく, 志多田 静・やく/六耀社/2016. 4/¥1600/(絵本)
中	『スミソニアンに恐竜がやってきた!』(RIKUYOSHA Children & YA Books)/ジェシー・ハートランド・さく, 志多田 静・やく/六耀社/2016. 7/¥1600/(絵本)
高	『大研究能と狂言の図鑑』/国土社編集部・編/国土社/2016. 2/¥3800/(773)
高	『大研究歌舞伎と文楽の図鑑』/国土社編集部・編/国土社/2016. 3/¥3800/(774)
高	『ポール・セザンヌ』(Rikuyosha Children & YA Books 世界の名画:巨匠と作品)/スージー・ブルックス・著/六耀社/2016. 6/¥2300/(723. 35)
高	『クロード・モネ』(Rikuyosha Children & YA Books 世界の名画:巨匠と作品)/スージー・ブルックス・著/六耀社/2016. 9/¥2300/(723. 35)
高	『ピーテル・ブリューゲル』(Rikuyosha Children & YA Books 世界の名画:巨匠と作品)/ポール・ロケット・著/六耀社/2016. 7/¥2300/(723. 359)
高	『レオナルド・ダ・ヴィンチ』(Rikuyosha Children & YA Books 世界の名画:巨匠と作品)/ポール・ロケット・著/六耀社/2016. 5/¥2300/(702. 37)
高	『フランシスコ・ゴヤ』(Rikuyosha Children & YA Books 世界の名画:巨匠と作品)/ポール・ロケット・著/六耀社/2016. 8/¥2300/(723. 36)
高	『フィンセント・ファン・ゴッホ』(Rikuyosha Children & YA Books 世界の名画:巨匠と作品)/ルース・トムソン・著/六耀社/2016. 10/¥2300/(723. 359)
高	『子どもに伝えたい和の技術 6 和楽器』/和の技術を知る会・著/文溪堂/2016. 3/¥2500/(502. 1)

■スポーツ・その他

★	中	『日本語あそび学 平安時代から現代までのいろいろな言葉あそび』/稲葉 茂勝・著/今人舎/2016. 6/¥1800/(807. 9)
	中	『あやとり学 起源から世界のあやとり・とり方まで』/野口 廣・著/今人舎/2016. 4/¥1800/(798)
	低	『たのしいあやとり大図鑑』/フィグインク・編/汐文社/2016. 4/¥3200/(798)
	中	『やってみよう! むかしのあそび 1~8』/ポプラ社/1~8全て2016. 4/1~8全て¥2600/(384. 55)
	中	『あそぼう、けん玉』(こどもチャレンジシリーズ)/日本けん玉協会・編著/ベースボール・マガジン社/2016. 4/¥1500/(798)

■復刊・改訂版

	低	『足はなんぼん？ 新版』(いたずらはかせのかぐの本)/板倉 聖宣・著/仮説社/2016. 8/ ¥2200/(481. 1)
	低	『はこぶ』(五感のえほん)/佐々木 幹郎・文, いわむら かずお・絵/復刊ドットコム/2016. 8(「ブリタニカ絵本館ピコモス 12」(日本ブリタニカ 1983年刊)の再刊)/ ¥2500/(絵本)

■かこさん

	低	『かわ 絵巻じたてひろがるえほん』/加古 里子・さく・え/福音館書店/2016. 9/ ¥3000/(絵本)
	低	『出発進行！ 里山トロッコ列車 小湊鐵道沿線の旅』/かこ さとし・作・絵/借成社/2016. 5/ ¥1200/(686. 2135)
	中	『こどものとうひょう おとなのせんきょ かこさとし◆しゃかいの本』/かこ さとし・著/復刊ドットコム/2016. 8(童心社 1983年刊の再刊)/ ¥1600/(314. 8)

■その他

★	YA	『明日の平和をさがす本 戦争と平和を考える絵本からYAまで300』/宇野 和美ほか・編著/岩崎書店/2016. 11/ ¥1980/(319. 8)
★	YA	『ビーカーくんとそのなかまたち この形にはワケがある!ゆかいな実験器具図鑑』/うえたに夫婦・著/誠文堂新光社/2016. 7/ ¥1500/(407)
	高	『暗号学 歴史・世界の暗号からつくり方まで』/稲葉 茂勝・著/今人舎/2016. 7/ ¥1800/(809. 7)
		『学校図書館を彩る切り絵かざり 型紙つき』/CHIKU・著/少年写真新聞社/2016. 4/ ¥1800/(017)
		『学校図書館が動かす読書イベント実践事例集』/牛尾 直枝・編著, 高桑 弥須子・編著/少年写真新聞社/2016. 5/ ¥1800/(017. 2)

公益財団法人図書館振興財団
第17回 子どもの本 この1年を振り返って 2016年 講演録
■ノンフィクションの部■

講演：科学読物研究会 遠藤 美子

皆さん、こんにちは。科学読物研究会の遠藤です。科学読物研究会・新刊研究会では月1回、1か月の間に出版された子ども向けの科学の本を参加したメンバーで目を通し、評価しています。本日は研究会での支持が多かったものなどを中心にご紹介していきます。

■2016年のノンフィクションの傾向

まず、2016年のおおまかな傾向としては、選挙権が18歳に引き下げられたことで政治や経済、国家などについて考えるきっかけになる本が多く出版されたことが印象的でした。また、セクシャルマイノリティへの理解を深めるための本がここ数年、毎年出版されています。それらの本がより繊細な部分まで細分化して解説、理解を深めるための内容になってきていると感じました。

ごく基本的な、身のまわりのものの「絵じてん」もここ数年刊行されています。学校の現場で、多言語の子どもたちを教育する場面が増えてきているということから、そのようなニーズがあるのではとの意見が研究会でも聞かれました。

その他にも、教科書の内容に沿ったシリーズのもの、例えば『すがたをかえる食べもの』(学研プラス)などの加工食品をテーマとしたシリーズや、『はたらくるま』(WAVE出版)、『よみきかせのりものしゃしんえほん』(岩崎書店)などをはじめとする、働く車や乗り物を取り扱ったシリーズが、複数の出版社から続けて出版されているのが印象的です。

また、かこさとしさんの作品などをはじめとする、図書の復刊も目立ちました。かこさんは精力的に新しい本も描かれていますが、最近復刊となった作品では選挙に関するものがありました。子どもたちによる身近な遊び場の取り合いというテーマから選挙の解説につないでおり、とても分かりやすい作りになっていると改めて感じました。

絵巻仕立ての『かわ』(福音館書店、2016年9月刊)は、研究会でも話題になりました。流域の人々の暮らしの様子もかなり変わってきているという意見も聞かれました。『足はなんぼん?』(初版：国土社、1970年刊)も絵と出版社が変わって復刊となりましたが(仮説社、2016年8月刊)、「以前の方が良かった」「今回の方が手に取りやすくなった」など様々な意見がありました。

■科学入門

『文房具のやすみじかん』は、男の子が持っている文房具がしゃべりだすという形をとり、「書く」ことがどういう仕組みであるかを解説。鉛筆は黒鉛と粘土を混ぜてできているので、紙の繊維の上にとどまり消しゴムで消せますが、色鉛筆は色の粉をWAXで固めているので、紙の繊維の奥まで入って表面もツルツルになってしまい、消しゴムでは消えません。また、ボールペンは

インクが紙の繊維に染みこむという様子が、幼児・低学年の子でも見て分かるつくりになっています。

■科学一般

『親子でできるたのしい科学実験』。表紙に「ナショナル式自由研究」とあるように、国内の自由研究の本とは雰囲気や色彩も異なり目を引きます。掲載されている実験の種類も、日本のものと少し違いました。実験の1つに、チキンスープに泥を少し混ぜて屋根裏に放置しバイオフィルムを作った様子があります。「やってみた」というコラムもあり、「失敗だった」例も紹介。「このような状況だったからダメだったのかもしれない」ということも書かれています。巻末ではポスターの書き方やプレゼンの方法なども紹介し、ホワイトハウスでのサイエンスフェアの様子も掲載されています。

『人はなぜ酸素を吸うのか』。これは『そもそもなぜをサイエンス』の第3巻です。これまでも『空はどうして青いのか』(第1巻, 2016年5月刊)、『風はどこから吹いてくるのか』(第2巻, 2016年7月刊)といった疑問を専門用語を用いて、詳しく高学年向けに解説。図を多用しているため、とても分かりやすいです。呼吸のしくみから細胞のつくりやしくみ、酸素の性質などについて説明しています。酸素を運ぶヘモグロビンの様子、そして植物の呼吸などについても触れ、「地球上のすべての生物は、呼吸の原料である有機物と酸素の両方を植物にたよっている」(p. 35)と書いています。

■植物

その「植物」からは、『植物はなぜ動かないのか』。「ちくまプリマー新書」として刊行されました。毎年この「ちくまプリマー新書」からは、興味深い内容のものが刊行されています。

「強さ」とは何かをテーマに掲げ、「植物は動かず、食べられ放題のか弱い存在なのか？」という問いに「弱くて強いのが植物だ」と説明しています。植物は大きさ等を自在に変化させていくことで様々な環境に適応することができるという強さがあり、生き残るためにナンバーワンになれる場所を見出してもいるなど、植物の強さについて興味深く語っています。

『イチョウの絵本』は、「まるごと発見!校庭の木・野山の木」シリーズの1冊です。イチョウの祖先といわれるものは2億9000万年前より存在し、イチョウの仲間の化石は世界各地で見つかっていて、恐竜の時代には全盛を極めていたことが分かります。ところが1億3000万年前頃に被子植物が現れてその種が減ってゆきます。そして400~300万年前になると、絶滅の一手前まで追いやられてしまい、1種だけが中国の山奥に残るだけとなってしまったそうです。最後の方には、銀杏の食べ方やまな板作りも紹介されています。イチョウは全国で街路樹として最多の60万本を数えますが、実は絶滅危惧種に指定されているとも書かれています。

■昆虫・その他

『くらべた・しらべた ひみつのゴキブリ図鑑』。先程のイチョウと同じくらいの約3億年前の化石に、「ローチロイド」というものがあります。今のゴキブリとは全く同じ昆虫とは言えないものの「ゴキブリのような昆虫」という意味で、中生代になると今のゴキブリへとモデルチェ

ンジしたとあります。また、ローチロイドから分かれて生まれたグループには「カマキリ目」があり、前脚のつくりや、卵を何かに包んで産み落とすところなど、ゴキブリとカマキリは似ている部分があるそうです。シロアリ目もゴキブリの仲間であると書かれています。また「1匹いたら100匹いるって本当？」という疑問について、ヤマトゴキブリを飼育してみた結果がグラフに…。条件によって変わるとありますが、意外と成育には時間がかかるようです。

『ぜんぶわかる！トンボ』。この「ぜんぶわかる！」シリーズも毎回詳しい内容で、研究会でも好評です。複眼の仕組みや、羽にある「えんもん」と呼ばれる小さな黒い部分が、薄い羽が空気の流れによってねじれたりしないよう、押さえる役目を果たしていることなどが紹介されています。ヤゴの下顎が飛び出した瞬間の写真もあり、我が家で実際に飼育した時にそれを見て子どもと驚いたことを思い出しました。電子顕微鏡の写真も多く掲載されています。

『マイクロワールド大図鑑』第3巻の『電子顕微鏡でのぞいてみよう！昆虫』は、電子顕微鏡で見た世界です。目次には電子顕微鏡の紹介があり、「走査型電子顕微鏡」「透過型電子顕微鏡」「光学電子顕微鏡」の仕組みが簡単に解説されています。また、電子顕微鏡で撮影した写真はモノクロですが、この本の写真には色をつけており、実際の昆虫の色とは異なる場合もあると注意書きがあります。蝶の口の甘味を感じるセンサーや、幼虫の口にも味を感じる突起があり、食べる葉を間違えないようにしているそうです。また、セミやハチは飛ぶ際、前羽と後羽をフックでつなぐとあり、そのフックの写真なども掲載されています。

同じく虫を扱った『みつけた！びっくり虫』。作者の谷本雄治さんは、身近な場所で見かける小さな生きものの総称として「むし」と呼んでいます。そのため、中にはダンゴムシやクモ、ミミズなども含まれています。あとがきには「知識よりも友だちとしてむしとあそぶこと、ふれあうことを大切にしました」と書かれ、楽しい作りになっています。ナナフシは足が取れても、幼虫の間は脱皮するとまた生えてくるようで、足の生え始めはクルンとしていてピーターパンの「フック船長」のようであると表現。ジグモは巣をそっと取って遊ぼうなど、色々なことを紹介しています。

『ハチのくらし大研究』は、ハチについてとても詳しく書かれた本です。ハチの化石は2億2000万年前の地層から見つかっていて、恐竜の時代には既にハチがいたそうです。最初は幼虫が植物の葉を食べるハバチ、続いて木を食べるキバチ、その後昆虫に寄生するハチが現れ、肉食で狩りをする狩りバチへと進化し、その中から子育てをするハナバチが現れるようになったとあります。巣も色々で竹の節を利用するものや、地中につくるハナバチなどもあります。

地中に巣をつくるヒメハナバチに寄生するのが、次に紹介する『つちはんみょう』です。この本では、日本固有種のヒメツチハンミョウの不思議な生態について紹介。春、メスは4000個の卵を産み、ふ化した幼虫はコハナバチの巣穴に集まって、羽化したコハナバチにびっしりまとわりつきます。目指すのはヒメハナバチで、コハナバチは単なる花までの乗り物として利用するそうです。ヒメハナバチの花粉だんごにくっついた幼虫は、ヒメハナバチが地中の巣の花粉だんごに卵を産みつけると、花粉だんごを食べ、ヒメハナバチの幼虫も食べて、脱皮を繰り返す

て成虫になっていきます。その寄生率はたいへん低く、夥しい数の1齢幼虫が死滅していると書いています。あとがきには「私たちを含めたどの生き物も同じ。そして、死んでいったたくさんの命の上にいま私たちがいる」とあります。

■戦争と平和

同じように命の大切さ、そして戦争の残酷さを訴えているのが『零戦パイロットからの遺言』。2016年5月に99歳で亡くなった原田要さんへのインタビューをまとめたものです。原田さんは零戦パイロットでしたが、戦後は様々な職業を経て保育に携わります。しかし、湾岸戦争がテレビで中継された時に若者が「花火みたいできれい」と言ったという話に衝撃を受け、戦争の残酷さについて語る、語り部を始めたそうです。

■人権・福祉

『したがう？したがわない？どうやって判断するの？』。

「わたしたちは、いつも何かにしたがって暮らしています。親や先生、規則や法律に。あまり考えずにしたがっているときはないですか？ ～中略～ よく考えてみましょう。本当にしたがわないといけない？」(カバー折り返しより)とルソーやカント、トマス・ジェファーソンなど哲学者や社会学者の言葉を紹介し、きちんと考え、自分の意志で従うことを選ぶことの大切さを問いかけています。ルソーの言葉には「子どもは他人にたよるけれど、服従する者であってはならない」というものなどもあります。

『言葉がすらすらでないんだ 吃音』は「わかって私のハンディキャップ」のシリーズの1つです。吃音のある男の子が、自分がどんな気持ちでいるのか、もし助けてくれるならどうすればいいのかを読者に伝える形で語られています。「監修の言葉」によると、吃音の人に会ったことがある人は「ゆっくり話してみたら」とアドバイスするのがいいと思う傾向にあるそうです。しかし、吃音の原因は緊張やストレスであり、言いたいことを言うのに時間がかかるということなので、「最後まで聞くよ」とアドバイスするのが良い、そして「話し方ではなくて、話す内容を聞いているよ」という聞き手のメッセージを伝えることが大切という言葉が印象的でした。

『いろいろな性ってなんだろう？』。「いろいろな性、いろいろな生き方」シリーズ3巻の中の1冊です。巻頭に能町みね子さんのマンガが収録されています。性は「心の性」「体の性」「好きになる性」と分かれていることが説明されていて、「いろいろな人にきいてみたよ。」というコーナーでは様々な人が写真入りで、自身の性について答えてくれています。例えば「心の性は決めている、体の性は女性、どんな性別の人でも好きになる」、「心の性はエックス、体の性は男性、好きになる性別は男性が多い」など、性の在り方も多様であることが分かります。また、「パンセクシュアル」「アセクシュアル」「エックスジェンダー」など性の呼び方も解説。理解を深めるための本の紹介や、差別や偏見をなくすために支援や活動をしている団体一覧なども掲載されています。

『言葉を武器に変えて』は「きみが世界を変えるなら」シリーズ3作の中の1冊です。

「なやみのない子どもはいない。みんな「学校での人間関係」「家庭の問題」「病気や体の特性」、

「差別」などたくさん問題をかかえている。」(p. 6)「多くの子どもたちは壁にぶつかったとき、「どう言えばいいのかわからない」「言ってもムダだ」と思ってあきらめてしまう。～中略～ だけど、放っておいて状況が変わることなんてない。もし変えたいと思ったら、自分の本当の気持ちをほかの人にきちんとつたえ、わかってもらい必要がある」(p. 10～11)と書き、実例として本田圭佑、イチロー、トム・クルーズ、はるな愛、小栗旬の例を挙げています。居場所がないと思ったら、そこから逃げだすのもひとつ。逃げることは終わりではなくて新しい世界のはじまりであり、たくさん社会の中から自分の居場所を探せば良いと子どもたちに語りかけています。

■生き方・伝記

「言葉を武器に」ということで「生き方・伝記」の中から『知里幸恵物語』。

1903年登別に生まれ、北海道へアイヌ語の研究に来た金田一京助氏と出会い、アイヌの口承文学を聞き取って日本語訳をしていった女性の伝記です。明治政府は1899年、「北海道旧土人保護法」を制定します。しかしその法律は、アイヌの人々の生活を補償するためといえ、「旧土人」という名称や、申し出れば開墾する土地を与えるが、和人の開拓民の10分の1以下の広さであったり、畑に向かない土地も多々あったりと差別的なものでした。この法律が廃止されたのは1997年。同時に「アイヌ文化振興法」が制定され、アイヌ文化は日本の貴重な文化と法律上やっと認められたそうです。自らもアイヌである知里さん。19才の若さで亡くなりましたが、「銀のしずく 降る降る まわりに」という詩で知られています。

次に『メンデルと遺伝』。このシリーズも、有名な科学者たちの伝記を集めたものです。

メンデルというと、個人的には修道士というイメージが強かったのですが、1822年裕福とはいえない農家の息子として生まれます。学校の成績はずばぬけて良かったため、進学することを勧められるものの、学費が払えずとても苦勞したそうです。「生きるために悪戦苦闘する状態から解きはなってくれる職につくほかはない」(p. 23)として司祭職に。当時の修道院は文化や芸術、学問の中心的存在であったため、大学に行かなくても学問を続けることができました。8年の研究の末、論文「雑种植物の研究」を発表しますが、すぐには認められず、発表後35年たってから再発見されます。1900年代になって、やっと時代がメンデルに追いついたと綴っています。

『ルイ・ブライユと点字をつくった人びと』。前半はルイ・ブライユの伝記で、後半では世界および日本での点字の歴史を解説しています。その中で注目したのは、アメリカでは盲学校ごとに使われている点字の方式が違っていたため、1931年第1回世界盲人会議でヘレン・ケラーが、ルイ・ブライユの点字を世界共通の盲人のアルファベットとすることを提案したそうです。その意見が採択され、統一されたとあります。ヘレン・ケラーの活躍について触れられていたことが興味深かったです。

「こんな職業の本も出たか」と目を引いたのが、『ニッポンの刑事たち』。「はじめに」で、コロンボ警部や「相棒」(テレビ朝日)の右京さんのように、名推理で事件を解決ということは100%ありえない、何人、何十人もの刑事たちのチームプレーで解決していると書いています。ま

た、本文では「刑事の“あるある”」といったものも紹介。取調室のカツ丼やマジックミラー、張り込み時のあんぱんと牛乳、本庁と所轄の関係などについても触れるほか、死体を見る機会が多いため、退職後は葬儀関係の会社に就職する人も少なくないなど、知らない世界を覗いた気がしました。

■地理・歴史

『世界中からいただきます!』。これは、世界14か国17家族に「居候」してきた記録です。「居候」とは「他人の家にタダで泊めてもらって、ごはんを食べさせてもらうこと」。興味深かったのは、カンボジアのトンレサップ湖の水上集落の生活です。そこには学校も教会もあり、ごはん、洗濯、水浴び、トイレはもちろん同じ水の上。湖にはゆるやかな流れがあり、トイレの水は右へ、きれいな水は洗い場の方へ流れるように舟の向きを固定しているとのことですが、著者はそこでアメーバー性赤痢にかかってしまったそうです(「いただきますコラム05」より)。タイのヤオノイ島ではカブトガニを食べたとの記載もあります。日本からのお土産で喜ばれたもののランキングもあり、興味深い内容です。

■社会・暮らし

『干したから…』。干し柿など、渋くて食べられないものでも干すことによって甘くなる。みかんも水分をぬくと腐りにくくなると見開きで分かりやすく書かれています。さらにかつおぶしなどは、干すことによって違う美味しさが生まれるとあります。年に1回しか手に入らなくても、干すことによって毎日食べられるようになる。また、モンゴルの草原では肉を食べるなら1頭殺さなければならず、食べきれない分は干す。「干す」ということは、ずっと食べられるように工夫してきた世界共通の知恵として紹介しています。

『ざざ虫』。川の中にすむトビケラやカワゲラ、ヘビトンボの幼虫を食べる。つるはしで川底の石をひっくり返して、特製の鉄のかんじきで石から幼虫をこすり落とし、それをつくだ煮にして食べる。川のなかで小波が立つ場所を「ざざ瀬」といい、そこに棲む虫であるため「ざざ虫」と呼ぶそうです。しかし近年は、漁をする人も食べる人も減ってきています。そこだけの文化なので大事にしてほしいと結んでいます。

『話したくなる世界の選挙』では様々な国の選挙について紹介しています。6月に選挙権年齢が18歳になったことで、政治にも「もっと若い世代の意見を」という思いから作られた本ではないでしょうか。例えばアメリカでは、投票するには有権者登録が必要です。よって、投票できる年齢となったら案内が届くということではないようです。タイでは選挙日の前日18時から当日までは禁酒。お酒で判断を誤らないためであるそうです。また、日本の選挙では、2012年の衆議院議員選挙の時には650億の税金が使われたという説明があります。選挙権年齢のグラフのデータも掲載され、選挙権年齢が判明した189か国のうち88.4%が18歳であるとのデータも紹介しています。

『お金さえあればいい? 子どもと考える経済のはなし』は「お金って何?」ということから解説しています。お金について考えるときに大事なことは「お金は何のためにあるのか」「お金

はどうやってお金になるのか」の2つであることを挙げ、主役は人でお金は脇役「手段」であるということを知り、お金にふりまわされてはいけないとしています。人と人をつなぐことが本来のお金の役割で、経済活動は人を幸せにするものであるということ詳しく解説。日本の経済がどういう方向を目指していけばいいのか考えてほしいと問いかけています。

『まいにちつかうはしってすごい!』。はしの持ち方等の本も、毎年のように出版されています。この本のあとがきでは、筆者が行った「はしを正しく持てているか」の調査結果について触れており、親の世代でも正しく持てていない人が多いという結果が出たと書いています。最後の一文に「親子で正しいはしの持ち方を目指しましょう」とあります。

■宇宙・地球

「宇宙・地球」の分野からは、『よくわかる火山のしくみ』。火山が噴火するシステムを東北地方をモデルに解説しています。また、プレートの動きやそれにつられるマントルの動きなども図解。溶岩が島を作った例として、小笠原諸島の西之島が紹介されています。1973年に西之島新島ができ、2013年の海底噴火で再びドンドン大きくなる様子を写真で追っています。その他、2014年の御嶽山噴火の時に8合目半にいた人の体験談や、2015年の箱根の話も掲載し、最後の方では噴火の予知の研究についても触れています。

『宇宙探査の歴史』。装丁を見ると中学生から高校生向けという印象ですが、ルビがふられており文章もとても分かりやすいので、興味がある子であれば、小学校高学年でも理解できるのではないかと思います。星座を見ることで種蒔きの時期を判断していた時代の話から、現代のニュートリノ、ダークエネルギーやダークマターについてまで解説。また「21のアクティビティ」として、「ブラックホールをつくる」や「パルサーをためしてみよう」といった簡単な実験も紹介していて面白い本でした。

『月はぼくらの宇宙港』。宇宙探査の目的や意義として「地球の未来を想像するため」「地球以外の天体にも住む場所を広げておくため」、また「宇宙人との出会いを求めて」といったことが挙げられており、その拠点としての月の開発について説明しています。口絵によって、子どもたちにも具体的に想像しやすいのではないかと思います。地球と月の互いの引力で、宇宙ステーション等が落ち着いてとどまっていられる「ラグランジュポイント」と呼ばれる場所があり、そこにロケットの建設基地や宇宙ステーションを作ることができるのではないかと将来図も描かれています。

■古生物・化石

『鉱物・化石探し』。こちらは関西版です。鉱物の紹介をするほか、実際に採れる場所は、関西のどのポイントであるかを詳しく紹介。大阪駅や大丸京都店のどこに行けば、化石を見ることができるかなどを説明しています。ぜひ関東版も作っていただきたいと思います。

■生物一般

『草食動物はどんなウンコ?』は、「みてビックリ!動物のウンコ図鑑」シリーズの1冊。例

えばコアラのウンコは「ドングリ、コロコロ」。コアラは毒のあるユーカリを主食としていますが、小腸のあとに続く2 mもの盲腸で毒を分解するため、フンが体外に排出されるまでに1週間近くかかるそうです。また、アサリのフンは太さが0.2~0.5 mmであることなども紹介しています。

『外来生物ずかん』。その地域にはいない外から持ち込まれた生きもの、と外来生物の定義をしています。国内生まれの外来生物というものが存在することや、自らやってくる渡り鳥は外来生物ではないといったことも書かれています。それらの生物が国内に持ち込まれた理由や、外来生物法での指定などがマークで示され、子どもでも分かりやすいと思います。

『ずかん細菌』。「とても小さい」ことが互いにとても似ているとして、「ウイルス」「細菌」「カビの孢子」を並べ、大きさの比較や体のつくりのちがいを詳しく解説しています。2015年にノーベル医学・生理学賞を受賞した大村智博士や放線菌の紹介、プラスチックをつくる細菌やペットボトルの原料であるペット樹脂を食べる細菌について、また最近の研究によって、細菌が雨や雪の発生にも重要な役割を担っていることなどが書かれています。

■魚類・その他

このジャンルからは、『ウナギのいる川いない川』。天然ウナギのうなぎを食べるためにどうするか。長い旅をするウナギの一生が、地図でわかりやすく描かれています。ウナギは6月頃グアム島付近で卵を産み、30時間ほどでふ化した稚魚は黒潮に乗って日本の海岸まで移動してくるそうです。ウナギは1か所に集めて養殖をすると全部オスになってしまうようで、シラスウナギは成長して20 cmくらいになる頃に性が決まるらしいことが分かってきたと書いています。ニホンウナギは2013年に絶滅危惧種として指定されてしまいました。「うなぎの未来は川にあり」とし、川の保全について考えようと結んでいます。

■人体・医学

『カミカミおもしろだ液学』。まず、だ液の中の「リゾチーム」発見の経緯について触れています。科学者アレキサンダー・フレミングは風邪をひいていたため、ばい菌を育てるシャーレの中に鼻水をたらししてしまったのですが、その鼻水の周りのばい菌が発育しなかったことから、リゾチームの発見につながったという面白いエピソードが紹介されています。その他、今の子どもはだ液が少ないという歯科医の話も掲載されており、その理由として柔らかい食べ物が増えて噛む回数が減っただけでなく、食べ物をお茶や水で流し込んでしまうことが多いためではと書いています。人は歳を重ねていくとともにだ液が減るため、子どもの内からよく噛むことを習慣づけること、食べ物はお茶や水で流し込まないことが大切だと伝えています。

■鳥類

『鳥のくらし図鑑』。この本では、身近な39種の野鳥について紹介しています。例えば1年中同じところに住んでいるように見えるスズメですが、足環をつけて調査したところ、若いスズメは秋になると集団で移動することが分かったそうです。新潟で標識をつけたスズメが100~400キロ離れた滋賀県や静岡県でつかまっており、生まれた場所からどのくらいの数のスズメ

が移動しているのか、身近ながら分からないことも多く、謎の多い鳥であると書かれています。

■工業・産業

雪を利用する「利雪」について取り上げた『空から宝ものが降ってきた!』。雪室にためた雪を利用するという昔ながらの3つの方法。「自然対流式」は冷たい空気で自然に冷やし、「空気循環式」と「冷水循環式」は少し電力を要すけれど、大規模な施設を安定的に冷やします。新潟県の安塚町では、小学校の食堂や中学校の全教室に雪冷房を利用しているそうです。その他にも、雪室で貯蔵することで野菜を美味しくしたり、2年経ても新米の味を保ったり、夏の冷房が欠かせないしいたけの栽培では、雪を利用することで年間数十万もの電気代を削減したりなど、雪には様々な使いみちがあると紹介しています。

『大震災と水産業』は「守ろう・育てよう日本の水産業」シリーズの1冊です。岩手県の大槌町は「新巻鮭」発祥の地で鮭の養殖が盛んです。28のふ化場がありましたが、津波被害を受けなかったのは5か所、部分的な被害は6か所だけであったそうです。しかし、秋までに稚魚を放流しないと4年後に鮭が獲れないため、秋までに何とか震災前の70%の稚魚を育て放流することができたと書いています。結果が分かるのは、4年後の2015年でしたが、戻ったのは約280万匹。予測の半分でしたが、鮭が戻ったというその姿に勇気をもたらたとありました。

『深く、深く掘りすすめ! <ちきゅう>』では、2005年に完成した地球深部探査船<ちきゅう号>について解説。マントルまで掘って調べるにあたり、海底下を掘るそうですが、そのためには探査船を海上に静止させていなければ掘削できません。この「ちきゅう号」は全長210m、幅38m、船底からの高さ130mもあり、DPS（自動船位保持装置）で半径15m以内の海上に留めておくことができます。掘りくずで海を汚さないための工夫や、掘りだした「コア」とよばれるものは高知にあるコアセンターで保管され、インターネットで公開して世界中の研究者に情報を提供していることなども紹介されています。掘削によって、東日本大震災の津波の原因究明にも役立ったそうです。

『宇宙機の進化』。「世界がおどろいた!のりものテクノロジー」の1冊です。初めに「最初の宇宙飛行士?」として中国のワン・フーを紹介。16世紀、日本では信長や秀吉の時代、ワン・フーは47個の大きな火薬ロケットをイスに結び付けて乗り込みました。導火線に火をつけると大爆発。その後、ワン・フーとイスを見た人は誰もいなかったそうです。本の下部分には年表が掲載されています。これからの宇宙テクノロジーの開発には、①打ち上げにかかる費用をどうやって抑えるか ②他の惑星へ行く長期間の任務にどうやって人間を送り出すかという2つの課題があると書いています。

『人類の歴史を作った船の本』。ヒサクニヒコさんの絵がとても面白く、ずっと見ていくだけで人類の歴史に関わっていく船の変化が分かって楽しい本です。人が海を渡るために船を使ったことは分かっていますが、本物の船が見つかることはほとんどありません。腐ったり燃えたり沈んだりして残ることがないためです。また、ローマの軍船や地中海の戦闘船は奴隷が漕いでいたとあり、奴隷がぎっしり詰め込まれている様子なども描かれています。

■スポーツ・その他

色々なことばあそびが紹介されている『日本語あそび学』。その中の1つ、落語から生まれた言葉あそびに「山号寺号」があります。お寺の名前「金龍山浅草寺」をモデルに「～さん～じ」でことばを作るというものです。例えば「おじさん、朝からそうじ」「市長さん、近所のおやじ」「ついに出産、あかちゃん双生児」など。他にも様々なあそびが紹介されており、子どもたちと楽しめるようになっています。

■その他

『明日の平和をさがす本』。2000年以降、2016年9月までに刊行された絵本からYAまで約5万冊の中から選んだ300冊の「戦争・平和」に関する本を紹介しています。戦争というと「重い」というイメージから、なかなか子どもたちに紹介しにくいと言われますが、ブックトークへの取り入れ方のアドバイスなども詳しく書かれています。第8章「平和をつくるために」で紹介されている『おじいちゃんは水のにおいがした』（偕成社、2006年刊）は、琵琶湖で暮らす田中三五郎さんの暮らしが淡々と描かれた写真絵本ですが、これを取り上げていることに私自身は新しい視点を感じました。資料編には、本の舞台となった地域のMAPや年表なども掲載されており、作品の背景を知る上で役立ちます。

おまけで、『ピーカーくんとそのなかまたち』。これは、実験器具をキャラクター化したものです。まえがきには、小中学生に向けて「理科の授業がいつもより面白くなるかもしれません」と書かれていますが、中の文章にはルビがないので、子どもたちが読むには少し難しいかもしれません。大人たちが特に楽しめる本でしょうか。「新品ピーカーくんの利用法」として飲み会での使用例や、キャラクター相関図なども載っています。ピーカーくんと三角フラスコは仲良しとか、二又試験管にいさんは三口フラスコねえさんにハートマークだが、その逆は「なんとも思っていない」など…。どういう根拠でしょうか(笑)。特に理科の実験器具を使ったことのある人には、色々な器具が紹介されていて面白い本だと思いました。

以上、皆さんご清聴ありがとうございました。

(於：株式会社図書館流通センター 2017年3月6日・7日)

※本図書リストおよび講演録の無断転用・複製は固くお断りいたします。